

災害から守ろう！ 伝建地区の町並み

今すぐ実行！ 災害への備え

篠山市内では、9月15～16日の台風18号により水害や土砂崩れなどの被害が発生しました。また、先日は篠山伝建地区の近くで火災が発生するという悲しい出来事もありました。

防災の第一歩は、日頃から万が一の災害に備えることです。今一度、火災や風水害などの災害への備えや非常時の避難場所、連絡先、情報収集方法などの確認をお願いします。また、火の取り扱いには十分に気をつけましょう。

今すぐ実行！ 防火対策

<p>ストーブの周辺は すっきりと</p> <p>特にカーテン、洗濯物には要注意。石油ストーブの給油、移動は必ず火を消してから。</p>		<p>風呂の 空だきに注意</p> <p>点火の時は浴槽の水量を確かめて。点火・消火は目で確認。</p>	
	<p>揚げ物のときは その場を離れない</p> <p>電話や来客の対応は、必ず火を消してから。そばに燃えやすいものを置かない心掛けも。</p>		<p>コンセントに こまめな気づかい</p> <p>たこ足配線、コンセントまわりのホコリに注意。使わないときはこまめに抜く。</p>
<p>寝たばこ ポイ捨て厳禁</p> <p>寝たばこは、しない、させない習慣を。火のついたたばこの放置やポイ捨ても厳禁。</p>		<p>就寝前の 火の用心</p> <p>ガスの元栓、コタツのコンセントなど指さし点検で火の元確認。</p>	
	<p>放火をさせない 環境づくり</p> <p>家の周りに燃えやすいものを置かない。物置、車庫などのカギはしっかり。</p>		<p>危険なたき火は 絶対にしない</p> <p>消火用の水を用意して。子どもだけでたき火をさせない。</p>
<p>子どもにはマッチや ライターで遊ばせない</p> <p>日頃のしつけをしっかりと。目の届くところにマッチやライターを置きっぱなしにしない。</p>		<p>消火の備えを 万全に</p> <p>火災報知器や消火器、軒下には水バケツを設置して防火訓練には積極参加。</p>	

●火災への備え（１） ー 早期発見や通報のために

住宅火災から大切な命、財産を守るためには、**火災の早期発見が不可欠**です。火災を知ったら、周囲の人に大声で火災を知らせ、**「119番通報」**をしてもらい、できるだけ**初期消火**を心がけましょう。それでも初期消火が困難なときは、ガラスの破片や落下物に注意し、家屋から**避難**してください。避難のときは、姿勢を低くし、煙にまかれられないように注意します。

住宅用火災警報器等は、住宅火災による煙や熱を自動的に感知し、警報を発することによって、火災の早期発見が可能になります。未設置の方は**できるだけ早く住宅用火災警報器等を設置しましょう**。

「もしも火が出たら…」

初期消火3原則	① 早く知らせる	「火事だ！」と 大声を出し 、隣近所に援助を求めましょう。声がでなければ、やかんなどを叩き異変を知らせ、ただちに 119番通報 をしましょう。
	② 早く消火する	消火は出火から 3分以内 が消火できる限度です。消火器や水だけでなく座布団や毛布などで火を覆うなど、 手近なものを活用 しましょう。
	③ 早く逃げる	天井に火が移ったら、 すぐに避難 をしましょう。避難するときは、延焼を防ぐため、燃えている部屋のドアや窓を閉めましょう。
④ 隣家への飛火・類焼	室温の上昇や空気の混入などにより、爆発的に燃え上がる現象（フラッシュオーバー）が起こると、一気に勢いを増し、隣の建物に燃え移ります。	
⑤ 地区への延焼・拡大	地区へ火災が広がってしまったら、指定された場所へ集団で避難しましょう。避難する際は必ず徒歩で。	

●火災への備え（２） ー 初期消火のために

全ての建物に**消火器**を設置することは防火対策の基本です。初期消火活動を支援するため、平成21年度から篠山まちなみ保存会と教育委員会が連携して、主要な通り沿いに**まちかど消火器の設置**、老朽化した消火栓用ホースの取り替えなどの整備を進めました。

「火元別初期消火方法」

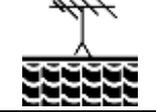
油なべ あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がないときは、濡らした大きめのタオルなどを手前からかけ、空気を遮断しましょう。		風呂場 火勢が強まる危険があるので、すぐに戸を開けるのは禁物。ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて、一気に消火しましょう。	
石油ストーブ 真上から一気に水をかけます。石油がこぼれて広がったら、毛布で覆い、水をかけて消火しましょう。		電化製品 いきなり水をかけると感電のおそれがあります。まずプラグを抜いて（できればブレーカーも切る）消火をしましょう。	
衣類 衣類に火がついたら、転げ回って消す方法も。髪の毛の場合は化繊以外の衣類やタオルなどを頭からかぶりましょう。		カーテン・ふすま カーテンやふすま等の立上がり面に火が燃え広がるともう余裕はありません。引きちぎり、蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火をしましょう。	

●地震への備え

伝統的な建築物は、建築後長い時間が経過していることから、地盤沈下や蟻害、腐朽といった被害により本来の耐震性能を損なっている場合があります。居住者は建物や塀などの状態を定期的に点検し、不具合や問題点を改善するように努めましょう。

また、地震時に家の中でけがをしないためにも家具類を固定しておくことや、子どもやお年寄りのいる部屋や寝室にはできるだけ家具をおかないようにすることも重要です。

「家庭でできる地震対策」

<p>タンス・食器棚・本棚</p> <p>壁面に密着して設置し、つっぱりやL字型金具で上部と側面を固定します。荷物や食器、本は重いものを下、軽いものを上に。</p>		<p>額・掛時計・照明器具</p> <p>落下防止のため、2ヶ所以上をしっかりと固定しましょう。その際、吊り紐は短く調整し、揺れ幅を小さくします。</p>	
<p>テレビ・ステレオ</p> <p>上に花瓶や金魚鉢をのせると水がこぼれてショートし、発火する危険があります。またラックやパソコンデスクのキャスターは、できれば取り外しておきましょう。</p>		<p>家具や棚の上の飾り物</p> <p>止むを得ず人形ケースなどを置く場合はヒートン(丸いわか金の金具)と紐などで柱に固定しましょう。</p>	
<p>ベッド</p> <p>キャスターは外し、落下転倒する可能性のある物からできるだけ離します。また、ガラスが砕け散った床の上を歩くことも考え、スリッパをベッドの下に置いておきましょう。</p>		<p>ピアノ</p> <p>超重量級のピアノは倒れなくても横に滑るだけで凶器そのもの。足底部にゴム足などの滑り止めをつけましょう。</p>	
<p>じゅうたん</p> <p>厚めのじゅうたんは家具の横滑りを抑えます。ただし購入には防炎マークの確認を忘れずに。</p>		<p>エアコン</p> <p>大型で重いため、高い位置のエアコンはL字型金具でしっかりと固定します。外部の室外機も落下に十分注意します。</p>	
<p>窓・カーテン</p> <p>窓に限らず鏡などの板ガラス類には、飛散防止フィルムを貼りましょう。防炎処理を施した厚手のカーテンの利用も効果的です。</p>		<p>ベランダ</p> <p>植木鉢、プランターの整理整頓。手摺にさびやぐらつきがないかチェック。エアコンの室外機は、倒れてガラスを割らないよう土台を固定します。</p>	
<p>屋根</p> <p>不安定なアンテナや屋根瓦、雨樋は補強して落下することのないようにしましょう。</p>		<p>家電製品</p> <p>オーブンレンジや炊飯器などは、あまり高い場所に置かないようにしましょう。</p>	
<p>ブロック塀・門柱</p> <p>土中に40cm以上の基礎部分がないものや鉄筋が入っていないものは補強しましょう。ひび割れや鉄筋のサビも修理しましょう。</p>		<p>玄関</p> <p>自転車、ベビーカー、ショッピングカートなど、脱出するときに邪魔になるものは置かないようにしましょう。</p>	
<p>火気器具の周囲には、燃えやすいものを置かないように、整理整頓しておきましょう。</p>		<p>自分で防止措置ができにくいときは、周囲の人や近所の人に協力をお願いしましょう。</p>	

●風水害への備え

川に注意！

大雨により河川は予想以上に早く増水します。河川の氾濫や決壊に注意が必要です。

強風にも注意！

気象庁の資料によれば、風速 10～15m/秒の風で取り付けの不完全な看板やトタンが飛び始めます。風で飛ばされた物がガラスを割ったり、家族や通行人にケガをさせては大変なことです。

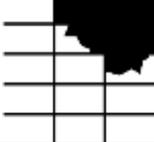
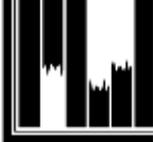
土砂災害にも注意！

雨水の浸透で地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべり等が起こりやすくなります。降雨時はもちろん、大雨のあともしばらくは注意が必要です。

でも、予測はできます！

台風や大雨は気象情報等によって時期を予測し、対策を立てておくことができます。

「家庭でできる風水害対策」

屋根 瓦やトタンのはがれ、ずれなどをチェックします。めくれやヒビは針金や釘で補強しましょう。		窓ガラス 飛来物や強風で割れないよう、雨戸をし、カーテンを閉めます。窓枠のガタツキを補強しましょう。	
外壁・家の周囲 壁の亀裂をチェックします。鉢植や物干し竿など、飛ばされそうなものは固定するか、屋内に移動しましょう。		雨樋・側溝 雨樋や側溝に詰まった落ち葉や土砂を取り除きましょう。雨樋は継ぎ目がはずれていないか確認しましょう。	
ブロック塀・板塀 ブロック塀のひび割れ・破損、板塀のぐらつきなどがあれば補強しましょう。		雨戸 雨戸のガタツキや緩みは補強し、隙間は板で覆います。	
浸水に備える 家財道具や生活用品、食料品などを高いところへ移動しましょう。		情報収集 ラジオやテレビ、防災ネットなどで、気象情報に十分に注意しましょう。	

●日々の備え — 避難の心得

常日頃から防災意識を高めることは重要です。**緊急時における避難場所や避難時のルート、安否確認**などを家族や隣近所、自治会で話し合い、地域の避難ネットワークを構築しましょう。

また**正確な情報を入手する**ことも大切です。テレビやラジオなどからの情報、ささやまデカンショ防災ネットの防災情報メール、広報車などによる市や防災機関の呼びかけをしっかりとチェックしましょう。

※ささやまデカンショ防災ネット メール受信希望の方は、インターネット接続できる携帯電話やパソコンで、次のURLを入力して手続きをお願いします。 <http://bosai.net/sasayama/>